



ふねあいのひろば

第23号



岡山市・サンノゼ市姉妹都市締結50周年記念 岡山市民親善訪米団
記念週間宣言書(オカヤマ ジャパン ウィーク)を手にする高谷岡山市長(中)とリード・サンノゼ市長(左)
ウィリアムス・サンノゼ市議会議員(右)

ごあいさつ

会長 野津 喬

会員の皆様におかれましては、平素から当協議会の活動に対しまして、格別のご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

昨年は、アメリカ合衆国・サンノゼ市との姉妹都市締結50周年の節目の年に当たり、4月には、300名を超える「岡山市民親善訪米団」がサンノゼ市を訪問し、また、今年3月には、サンノゼ市からの訪問団が来岡されるなど「未来につながる継続的で実りある交流」に向けた幅広い交流事業が繰り広げられました。

また、昨年は、朝鮮通信使訪日400周年の記念の年に当たったことから、7月には、瀬戸内市とともに総勢94名の「岡山市・瀬戸内市 市民友好親善訪韓団」がそれぞれの国際友好交流都市である富川市、密陽市等を訪問し、朝鮮通信使の足跡をたどり日韓善隣友好の歴史を学ぶとともに、11月には、表町商店街等を舞台に「朝鮮通信使行列」が、多くの市民が参加して盛大に行われました。

さらに、9月の「おかやま国際音楽祭」へは、富川市、新竹市から舞踊団や吹奏楽団の皆様が出演されるなど、プロのアーティストとともに、市民交流の面からも国際色に花を添えていただきました。

今年は、昨年の駐日ブルガリア大使の来岡等を契機として機運が高まったブルガリア共和国・プロブディフ市をはじめ東欧各地での「岡山市紹介展」の開催も計画されているほか、コスタリカ共和国・サンホセ市との姉妹都市締結40周年を祝う記念行事も予定されております。

また、岡山市では岡山市外国人市民会議(第2期)が設置されたほか、多文化共生社会の推進に向けたプラン策定などの取組も進んでいます。

こうした情勢のもと、当協議会としても、実りある国際交流と国際理解の推進、多文化共生社会の実現に向けて、民間交流といった立場から、岡山市と共に積極的な役割を担うことが期待されております。

今後とも会員の皆様方をはじめ、多くの市民の皆様方のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

● ● ● 目 次 ● ● ●

サンノゼ市との交流

- ・岡山市・サンノゼ市姉妹都市締結50周年記念
岡山市民親善訪米団 …………… 1
～サンノゼ市との半世紀にわたる交流～ …………… 2
中学生海外生活体験 …………… 3

洛陽市との交流

- ・岡山市友好訪中団、洛陽市民営企業訪日団 …………… 4
- ・第14回岡山市技術研修生 …………… 5
- ・第17回洛陽市技術研修生 …………… 5

富川市との交流

- ・朝鮮通信使訪日400周年記念
岡山市・瀬戸内市 市民友好親善訪韓団 …………… 6

韓国との交流

- ・日韓善隣友好フェスティバル in Okayama …………… 6

新竹市との交流

- ・岡山市民親善訪問団 …………… 7

富川市・新竹市との交流

- ・富川市・新竹市訪問団来岡～おかも国際音楽祭～ …………… 7
- ・岡山市・富川市職員相互派遣 …………… 8
- ・岡山市・新竹市職員相互派遣 …………… 8

国際サマーホームステイ in OKAYAMA 2007 …… 9

友好交流サロン

- ・外国語会話教室 …………… 11
- ・国際交流ふれあい講演会 …………… 12
- ・日本語教室、「あくら」の発行 …………… 13
- ・インターネットサービス …………… 13
- ・外国語書籍・雑誌の閲覧・貸出 …………… 13

ボランティア活躍記 …………… 14

ホットミニ情報 …………… 15

ふれあいたピックス …………… 15

サンノゼ市との交流

◎岡山市・サンノゼ市姉妹都市締結50周年記念 岡山市民親善訪米団

(平成19年4月27日～5月3日)

岡山市と米国・サンノゼ市が昭和32年に姉妹都市縁組を結んでから平成19年5月に50年の節目を迎えることを記念して、市民親善訪米団が4月27日から5月3日までの間、サンノゼ市等を訪問しました。

訪問したのは、高谷茂男岡山市長を団長に、経済関係者、海外生活体験をする中学生、市ジュニアオーケストラ団員、NPO関係者、公募した市民ら総勢およそ300人です。

サンノゼ市では50周年の節目を記念し、4月24日から5月1日までを『オカヤマ ジャパン ウィーク』と定め、これにあわせて中心部の街路灯には姉妹都市締結50周年を祝うフラッグがはためき、歓迎ムードを盛り上げていました。

市民訪問団一行は、LRT（次世代型路面電車システム）乗車や施設の見学など、サンノゼ市内を視察したほか、歓迎レセプションやサンノゼ日系まつり開幕式に参加するなど、現地の人たちとの交流を深めました。また、経済視察団は、ベンチャー企業の集積地であるシリコンバレーを訪問し、先端企業を視察したほか、地元商業会議所等と交流を深めました。一方、ジュニアオーケストラ団員は、サンノゼ・ユース・シンフォニーとの合同演奏会を行い、音楽を通じた交流が行われました。更にNPO視察団は、現地のNGOと交流会を行ったほか、現地視察を行いました。

両市間では、これまでに交換学生制度や専門家の相互派遣事業をはじめ、経済・文化・教育など幅広い分野で交流を深めてきており、これからも未来につながる継続的な交流が期待されます。



サンノゼ市役所表敬訪問



日本友情庭園での歓迎行事



第30回日系まつりに参加



経済セミナー



NPO交流会



サンノゼ・ユース・シンフォニーとの合同演奏会

「50周年記念のサンノゼ訪問を振り返って」

岡山市・サンノゼ市姉妹都市締結50周年記念事業実行委員長 国富 比左子

昨年4月の姉妹都市締結50周年記念のサンノゼ訪問には300人を超える市民の皆様のご参加をいただきました。多岐に亘るグループ、現地での多くの細分化された活動、岡山空港からの直接サンノゼ空港へのフライト、サンノゼ空港でジャンボ747-400機の近年初めての着陸許可など、異例づくめの旅でしたが、それぞれの皆様に交流の大切なお役目を果たして頂きました。

いつもと変わらなかったのは、カリフォルニアの青い空やおおらかな気持ちでなされていた準備ともてなし、サンノゼの皆さんの笑顔でした。多くの再会の感動があり、新しい出会いの心躍るドラマがあり、周りの人たちも、何度もそのお裾分けにあずかりました。

この姉妹都市縁組が一つのきっかけとなり、多くの人々が新しい世界に誘われ、結果としてこの縁組が発展していくように強く願いながら、帰国いたしました。

最後になりましたが、ご尽力くださいました皆様に心から感謝申し上げます。

～サンノゼ市との半世紀にわたる交流～

平成19年度に実施した岡山市・サンノゼ市姉妹都市締結50周年記念事業では、「未来につながる継続的で実りある交流へ」をキーワードに、半世紀にわたる両市間の交流の足跡を振り返るとともに、新たな実り多い交流を展開する出発点を目指してさまざまな事業が行われました。

50年間の主な交流の足跡

昭和32（1957）年5月26日に締結された全国でも3番目の姉妹都市縁組から始まった交流は、スポーツ、文化、芸術、教育など様々な分野で継続されてきました。50年にも及ぶ両市の交流は、年を重ねるごとに広がりや深まりを見せ、またその実績は他都市との交流にも大いに活かされてきました。

(1) 交流の始まり

昭和31年にサンノゼ市から姉妹都市縁組の打診を受け、昭和32年5月に両市でそれぞれ都市提携式典を挙行し、姉妹都市縁組が成立。



締結式典の様子（岡山市公会堂にて）



10周年記念植樹（烏城公園にて）

(2) 周年記念事業

節目の年における記念式典や、音楽会、記念植樹、サンノゼ市紹介写真展などの行事を開催。記念親善訪問団を相互に派遣。



20周年記念 姉妹都市写真展（天満屋地下ギャラリーにて）



30周年記念 フレンドシップフェア開会式（天満屋にて）



40周年記念訪問団の歓迎式典（サンノゼ市ローズガーデンにて）

(3) 交換学生制度

ウェード・ホーパー氏の提唱により、姉妹都市交流活動の一環として昭和33年から本制度が始まり、平成3年までの33年間に129名の交換学生が太平洋を渡っていき、交流の歴史を積み上げていきました。

(4) 専門家派遣事業

両市の先進的な各分野（建築・医療・災害救助・教育等）における専門家を相互に派遣し、情報交換・人的ネットワークを構築し、専門分野の交流を推進しています。平成4年度から始まり、現在まで15名の専門家が両都市の間を行き来しています。



災害救助の分野で専門家を受入



交換学生が日本文化を体験

(5) 日本友情庭園

サンノゼ市のクリーパーク内にある日本庭園で、岡山の後楽園をモデルに建設され、昭和40年10月に開園。園内には岡山から贈られた灯籠や鯉のほか、太鼓橋や八つ橋もある。昭和62年10月には「友情門」が完成。



サンノゼ市の日本友情庭園

(6) 市民間の交流

- 経済団体視察団が相互に訪問
- 高校・大学による姉妹校縁組締結
- 小中学校教師などによる教育交流
- サンノゼ市への中学生の派遣（子供海外派遣）
- 芸術家等が相互に訪問、芸術展などを開催
- 剣道や柔道などのスポーツ交流



文化交流団がサンノゼ市で演奏

◎中学生海外生活体験（平成19年4月27日～5月3日）

岡山市とサンノゼ市の姉妹都市締結50周年を記念して実施された海外生活体験事業では、公募により参加した市内在住の中学校2・3年生52名がサンノゼ市へ派遣されました。事前研修会でホームステイのマナーや語学指導を受けた生徒たちは、派遣先で一般家庭にホームステイし、学校訪問や施設見学を行い、現地の家族や子どもたちと交流を深め、多様な文化にふれる貴重な体験をしました。



岡山空港での出発式



オーチャード・スクール訪問



地元の生徒とバスケットで交流



インテルミュージアム見学



ピザパーティー

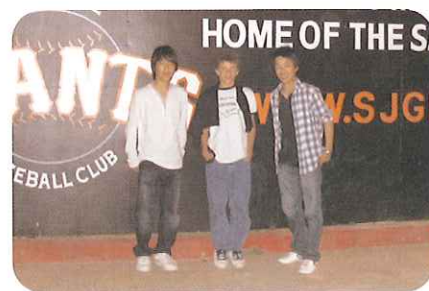
「そこはアメリカ」

岡山大学教育学部附属中学校 3年 班 学人

まわりは英語だった。いつも、初対面でも、こっちが英語が下手そうでも、英語。僕にはそんな真似はできない。学校の新しいALTの先生にでさえ、初めはトイレで隣にいたとき、おそろおそろあいさつするぐらいしかできなかった。

ホストファミリーと出会ったときも、球場でおばさんに「オーダー表と一緒に撮ってあげるよ。」と言われた時も、CDを買ったスーパーのレジ係の人もみんなそう。あきらかに外国人の僕に向かって、普通のスピードで言うてる。オーチャードスクールに行ったときも、昼食の後、いきなり6、7人の7年生の子達に囲まれて、次々と質問の弾丸が飛んできた。「何年生？」という簡単な質問がやけに長い文に感じて、3回も聞き取れなかった。だんだんこっちがあせってくる。でも、向こうは1回ずつだんだん分かりやすいように、考えてきてくれる。僕は、「悪いな。」と思いつつも話せるから嬉しい。僕なら、と考えると、友達と話す時でさえ自分の言ったことが2回も聞き取ってもらえなかったら、「もういいよ。ごめん。」とか言ってごまかしてしまうだろう。

ホストファミリーのお父さんと最後の晩御飯をレストランに食べに行ったときのこと。ステーキを切るのに一生懸命な僕に、「今回、サンノゼに来て学んだこと、っていうか考えたことはなんだい？」ときいた後、自分が高校のとき一人でボリビアに行ったときの話をして、「僕は自分たちと顔の違う人たちを見てびっくりしたけど、向こうの人は僕が彼らと違うことを全然気にせず、普通に話しかけてくれた。それでいろんなことが話せた。」と言った。これだ、と思った。僕は分かっていなかった。でもオーチャードの人も球場のおばさんも分かっている。「言葉が違うのは当たり前、でもここはアメリカ。相手もそれはわかっている。」ということ。それを僕がわかるようになれば、次は自分の下手な英語を相手にぶつけられるようになる。



班君(右) 球場にて

洛陽市との交流

◎岡山市友好訪中団 (平成19年10月9日～10月13日)

洛陽市とは、友好交流を深めるため隔年相互に訪問団を派遣することとしており、19年度は岡山市から高谷茂男岡山市長を団長、磯野昌郎岡山市議会副議長を副団長とする総勢7名による「岡山市友好訪中団」を洛陽市へ派遣し、郭洪昌市長への表敬訪問などを行いました。



高谷岡山市長(左)と
郭洛陽市長(右)



握手を交わす高谷岡山市長
(左)と連中国共産党洛陽市
委員会書記(中)と磯野岡山
市議会副議長(右)

◎洛陽市民営企業訪日団 (平成19年10月29日～10月31日)

洛陽市からは、張月玲洛陽市副秘書長を団長とする「洛陽市民営企業訪日団」一行11名が岡山市を訪問しました。



天野岡山市副市長(左)と
張洛陽市副秘書長(右)



福祉機器を見学

第14回 岡山市技術研修生

「私が中国研修を希望した理由は、中国が大好きだからです。」

安井 美那子 (やすい みなこ)

所 属：就実大学人文科学部実践英語学科

研修期間：平成19年4月11日から1年間

研修分野：中国語

中国の学生と一緒に

(前列左から二番目が安井さん)



私が中国にきて10か月が経ちました。生活にもすっかり慣れ、中国での生活を楽しんでいます。私が通っている洛陽大学には、留学生が私一人だけなので、授業は先生と一対一です。中国語の授業は、私のペースで授業を進めてくださり、私に分かるまで教えてくださっています。中国語はもちろんのこと、中国の文化、歴史、習慣を含む内容を教えてくださるので、内容の濃い授業です。そして中国の伝統楽器の一つである二胡も勉強させていただいています。音楽を通して伝統文化に触れることができています。

授業以外の時間は、大学生達とバスケットボールやバドミントンなどのスポーツを通して交流を図っています。友達との交流を通して学んだことは、何事にも相手の国を知るには、その国の人の立場になって考え、同じ視点にたってみることが一番大切だと思いました。人と人の交流は私の中でかけがえのないものです。

私は貴重な経験をさせていただいていることに本当に感謝しています。短期留学では分からない、長期留学だから分かる、中国を楽しんでいます。この場をお借りして、岡山市の方、洛陽市の方、お世話になっている日中両国の皆さまに心より感謝を申し上げます。私がこのような素晴らしい経験ができてるのは皆さまのおかげだからです。言葉では言い表すことができません。日本に帰ってからは、岡山と洛陽に恩返しをしたいと考えています。中国でのこの貴重な経験を生かして、日中友好の交流をより一層発展させるように、これからもずっと関わっていきたくと思っています。私が洛陽と岡山の懸け橋になって交流をより一層発展させたいと思います。日中友好をこれからも深めるために、一生懸命頑張っていきたいです。

第17回 洛陽市技術研修生

「ありがとうございます 親切な岡山の友達」

曲 紅昇 (きよく こうしょう)

所 属：洛陽理工学院芸術学院副教授

研修期間：平成19年10月15日から1年間

研修分野：CGデザイン

初めてのソフトボール

(バッターが曲さん)



洛陽市と岡山市が友好都市締結して26年目の今年、私は洛陽市岡山市相互派遣技術研修生として、洛陽市から岡山市へ来ることができ、大変光栄に存じております。

10月15日、岡山に着いた日から多くの方にお世話をしてもらいました。それで一人で外国にいるようには全然感じませんでした。本当に感謝しています。10月18日高谷茂男市長を表敬訪問した際、高谷市長からは優しい応援の言葉をいただきました。日本での一年間、勉強を一生懸命頑張っていくと決心しました。

現在岡山ビジネスカレッジ日本語学科で日本語を勉強しています。その後、CGデザインで勉強する予定です。大野恵先生が担任で、富岡史子先生は主に日本語を教えてくれています。先生の教え方はとても役に立ちました。日本語を勉強するのが面白くなりました。また、学校の余暇、毎週木曜日の午後と夜、西川日本語教室で日本語の授業を受けています。そこにはたくさんの熱心な友達があります。とても楽しいです。

日本に来てまだ一か月半ですが、私は珍しい経験をいろいろしました。初めてソフトボールの試合に参加したこと、朝鮮通信使再現行列に参加したこと、美術館とJFE製鉄工場を見学したことなどです。また、自転車で津山市へ行った時見物した岡山の秋の景色はとてもきれいだと思いました。そして、いろいろな日本の普通の人に会ったり、日本人の生活と習慣を知ったりしました。今後は、多くの場所に出かけ、日本の民間文化を学びたいと思います。

親切で熱心な岡山の友達に深い印象を受けています。あちこちで出会う笑顔、親切な言葉、心から挨拶する日本人は大変お客好きだと思いました。

最後に、すべての友達に心からの感謝を表し、かつ両国人民の永久の友誼を心からお祈りします。

富川(プチョン)市との交流

◎朝鮮通信使訪日400周年記念 岡山市・瀬戸内市 市民友好親善訪韓団 ～韓国・富川(ミリョン)市、密陽(ミリョン)市、釜山(プサン)市～ (平成19年7月26日～7月28日)

文化交流と友好親善関係を象徴する朝鮮通信使が訪日して今年で400周年を迎えることを記念し、岡山市、瀬戸内市合同による市民親善訪韓団を派遣しました。今回の訪問では、岡山市、瀬戸内市それぞれの友好都市である富川市、密陽市で交流を行うほか、朝鮮通信使が船出した釜山市をはじめとするゆかりの地を巡り、両国の交流の歴史を学びました。

富川市表敬訪問▶

天野勝昭岡山市副市長(右)と洪建杓(ホン・コンピョ)富川市長(左)



◀歓迎夕食会



密陽駅

◀ソウル駅からKTX(韓国の新幹線)に乗車し、密陽駅へ移動

永嘉台(釜山市)▶
朝鮮通信使の出発と帰着地点となった場所で、渡航の安全と任務の成功を祈願する海神祭を行った場所



快適なKTX車内



表忠寺(密陽市)

密陽市の郊外に位置する表忠寺。文禄慶長の役の後、朝鮮通信使派遣の礎を築いた松雲大師ゆかりの寺院で、千年の歴史を持っている



お楽しみのブルコギの昼食

韓国との交流

◎日韓善隣友好フェスティバル in Okayama (平成19年11月10日)

朝鮮通信使訪日400周年を記念した「日韓善隣友好フェスティバル in Okayama」のメインイベントとなる朝鮮通信使行列が表町商店街で再現されました。行列には韓国の中学生のほか、岡山市や瀬戸内市民ら総勢約200人が参加しました。通信使派遣の礎を築いた松雲大師を先頭に、太鼓や銅鑼の音を響かせながら華やかに練り歩きました。



新竹市との交流

◎岡山市民親善訪問団 (平成19年10月17日～10月20日)

平成15年4月の友好交流協定締結以来、様々な分野において市民交流が広がっている台湾・新竹市へ、5回目の市民訪問団61名を派遣しました。今回は市民訪問団以外に、観光関係者を対象に台湾からの観光客誘致活動を行う「観光交流コース」を設けました。また、平成19年1月に開通したばかりの台湾高速鉄道（新幹線）に乗って高雄を訪問しました。

林新竹市長表敬訪問



▲歓迎夕食会
欣蕾(しんれい)舞踊団による歓迎の舞



歓迎夕食会
村手岡山市副市長(右)
と林新竹市長(中)

17千口海岸公園で植樹



台湾高速鉄道(新幹線)



太極拳体験



ビーフン工場見学



訪日教育旅行説明会

富川市・新竹市との交流

◎富川市・新竹市訪問団、おかやま国際音楽祭参加 (平成19年9月21日～9月22日)

“音楽にあふれるまち～おかやま”を目指して、「創造と発信」「国際交流」「新しいアーティストの発掘・育成」を三大テーマに開催された、おかやま国際音楽祭のオープニングフェスティバルとパレードに出演するために、富川市・新竹市両市の訪問団が来岡しました。富川市からは呉恩領(おうんりょん)舞踊団、新竹市からは光華(こうか)中学吹奏学部が参加し、桃太郎スタジアムで華麗な舞と演奏を披露しました。



富川市呉恩領舞踊団



新竹市光華中学吹奏学部演奏